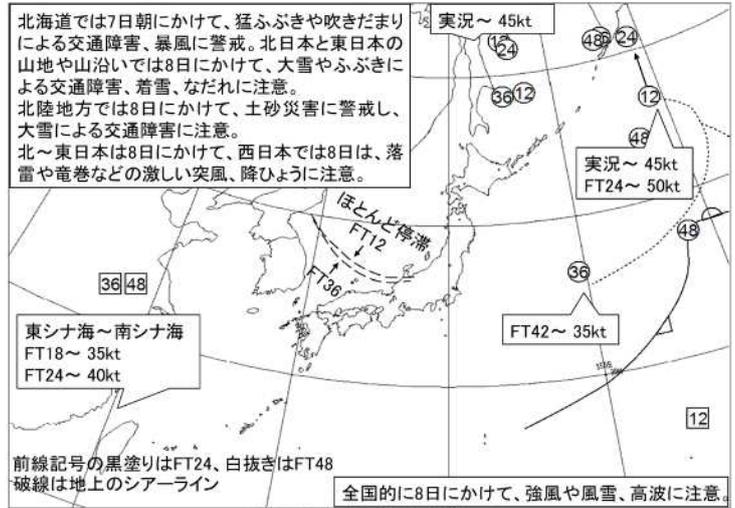


訂正箇所：2項③の2行目「西～日本」→「西～東日本」に変更

1. 実況上の着目点

- ① サハリン～日本海には、500hPa 5160mに-36℃以下の寒気を伴うトラフがあって東進。21時、稚内の高層観測では500hPaで-44.5℃の今冬最低の気温を観測。北日本では冬型の気圧配置が強まり、北日本では10cm/3h前後の強い降雪を観測。日本付近は気圧の傾きが大きくなっており、風が雪を伴って強く、海上ではしけの所がある。
- ② 日本海西部～北陸付近には、北よりの風と北西風とのシアーラインがのびており、シアーライン近傍の北陸付近では10mm/h前後の降水を解析し、雷も検知している。
- ③ 華北～モンゴルに5340m付近に-36℃以下の寒気を伴うトラフがあって南東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは、7日朝にかけて北日本を通過。北海道付近には500hPaで-45℃前後、700hPaで-27℃以下の、平年よりも10℃前後低い寒気が一時的に流入。また、7日中～夜と8日は、500hPaの-36℃以下の寒気を伴うトラフが北日本を通過するため、北日本では強い寒気の流入が続く。寒気を伴ったトラフの接近・通過に伴って、北日本では降雪が強まり、雷を伴う所もある。また、気圧の傾きが大きい状態が続くため、風が雪を伴って強く、波が高くしける所がある。北海道では7日朝にかけて、猛ふぶきや吹きだまりによる交通障害、暴風に警戒。北日本では8日にかけて、大雪やふぶきによる交通障害、着雪、なだれ、落雷や突風、降ひょう、強風、高波に注意。
- ② 1項②のシアーラインは、8日にかけて日本海西部～北陸付近にのび、ほとんど停滞。8日日中は次第に不明瞭となる。シアーライン近傍では大気の状態が非常に不安定なため、北陸地方では雷を伴ってやや強い雨の降る所がある。これまでの雨により、地盤の緩んでいる所があり、少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。東日本の山地や山沿いでは雪となり降雪量が多くなる所があり、北陸地方の平地でも局地的に降雪量が多くなる所がある。北陸地方では8日にかけて、土砂災害に警戒し、大雪による交通障害に注意。東日本では8日にかけて、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょう、山地や山沿いでは大雪や着雪に注意。また、東～西日本及び南西諸島では、8日にかけて気圧の傾きが大きいいため、風が強く、波が高い所がある。強風や風雪、高波に注意。
- ③ 1項③のトラフは、8日にかけて本州付近を通過する。トラフの接近・通過に伴い、西～東日本では大気の状態が不安定となり、雷を伴ってやや強い雨の降る所がある。また、西～東日本には850hPa -3℃以下の寒気が流入しているため、山地や山沿いを中心に雪となり、積雪となる所がある。西～東日本では8日は落雷や突風に注意。また、山地や山沿いでは積雪による交通障害に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：北海道50、北陸40、東北30、関東甲信・東海25cm。③ 波浪(明日まで)：北海道5、東北・北陸・近畿・沖縄4、関東・伊豆諸島・中国・九州北部・九州南部・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定はない。